

2019年9月期 上半期決算説明



【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。

株式会社ユーグレナ

2019年5月

2019年9月期上半期決算ハイライト

◎ 2019年9期上半期決算

- 連結経常損益※は黒字転換を達成、連結EBITDA※は黒字幅を拡大
- 対前下期比で売上高は減少しているが、収益性を確保する体制へ変化
- 2018年9月期の過剰投資スタンスを修正し、広告宣伝費、管理費等を適正化

※: バイオ燃料製造実証プラント引き渡しに伴う一括費用計上額を除いた数値

◎ ヘルスケア事業の進捗および展望

- 直販チャンネルにおける戦略商品の評価は順調に進捗。広告投資積極化の時期を見極めつつ、下期中に定期購入者数の反転・再成長を目指す
- 流通チャンネルは8,000店以上のドラッグストアへ「ユーグレナの緑汁」を配荷、下期はリピート注文増加に向けた販促・マーケティング施策を強化

◎ エネルギー・環境事業の進捗および展望

- デンソーと包括的提携を締結。バイオ燃料原料の多様化と藻類培養研究を加速
- 今夏バイオディーゼル燃料の供給開始に向け想定ユーザーは順調に拡大中、6月のG20サミットでは日本を代表する環境対策事業として出展予定
- バイオジェット燃料のASTM認証取得見込み時期は2019年秋頃に変更されるも、2020年の有償フライト実用化のスケジュールは変更なし

2019年9月期 上半期決算概要

2019年9月期上半期決算および通期業績予想

実証プラント一括費用計上額※を除いた利益面は対前上半期比大幅改善、経常損益は黒字化を達成

(百万円)	2018/9期 上期実績	2019/9期上期実績		2019/9期業績予想	
		一括費用計上含む	一括費用計上除く	一括費用計上含む	一括費用計上除く
売上高	7,179	6,919	6,919	16,500	16,500
営業利益	△1,111	△6,523	△153	△6,793	△420
経常利益	△897	△6,356	15	△6,373	0
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△992	△6,456	△86	△6,673	△300

※建設関連費用: 6,370百万円

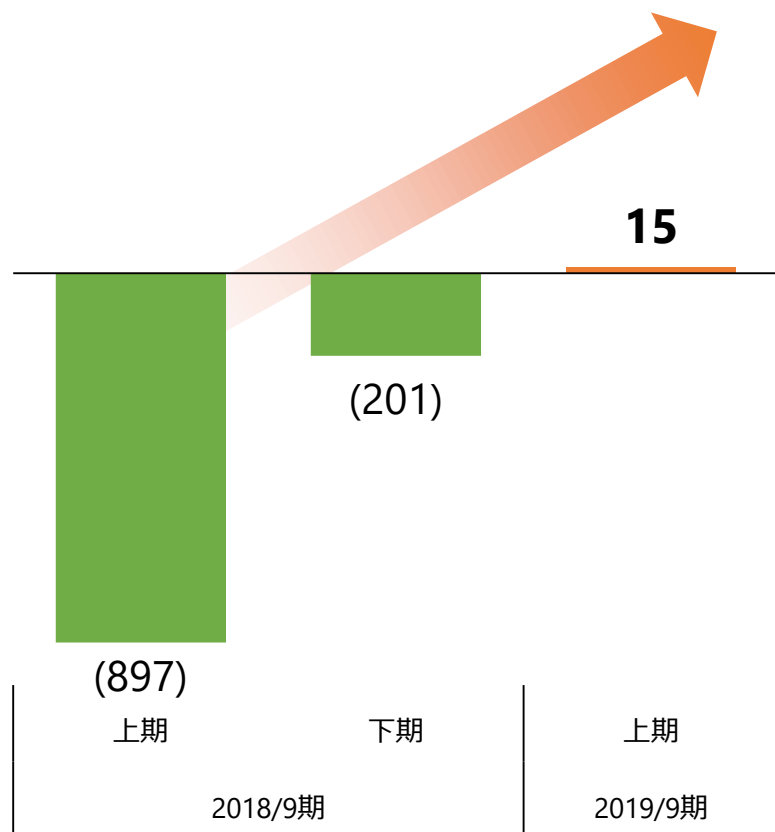
注: 上記は決算短信に合わせ百万円未満を切捨てて記載しております。以降のページのチャート、テーブルの記載値は百万円未満を四捨五入しているため、一部数値が一致しない場合があります。

経営指標—連結経常損益^{※1}、連結EBITDA^{※2}

連結経常損益は黒字転換を達成、連結EBITDAは黒字幅を拡大

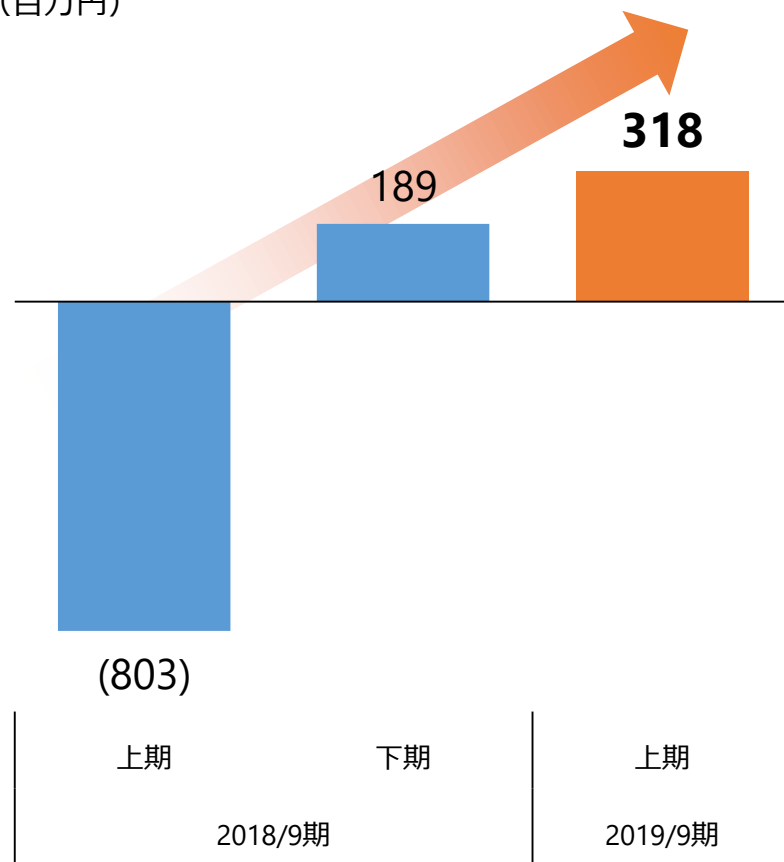
連結経常損益

(百万円)



連結EBITDA

(百万円)

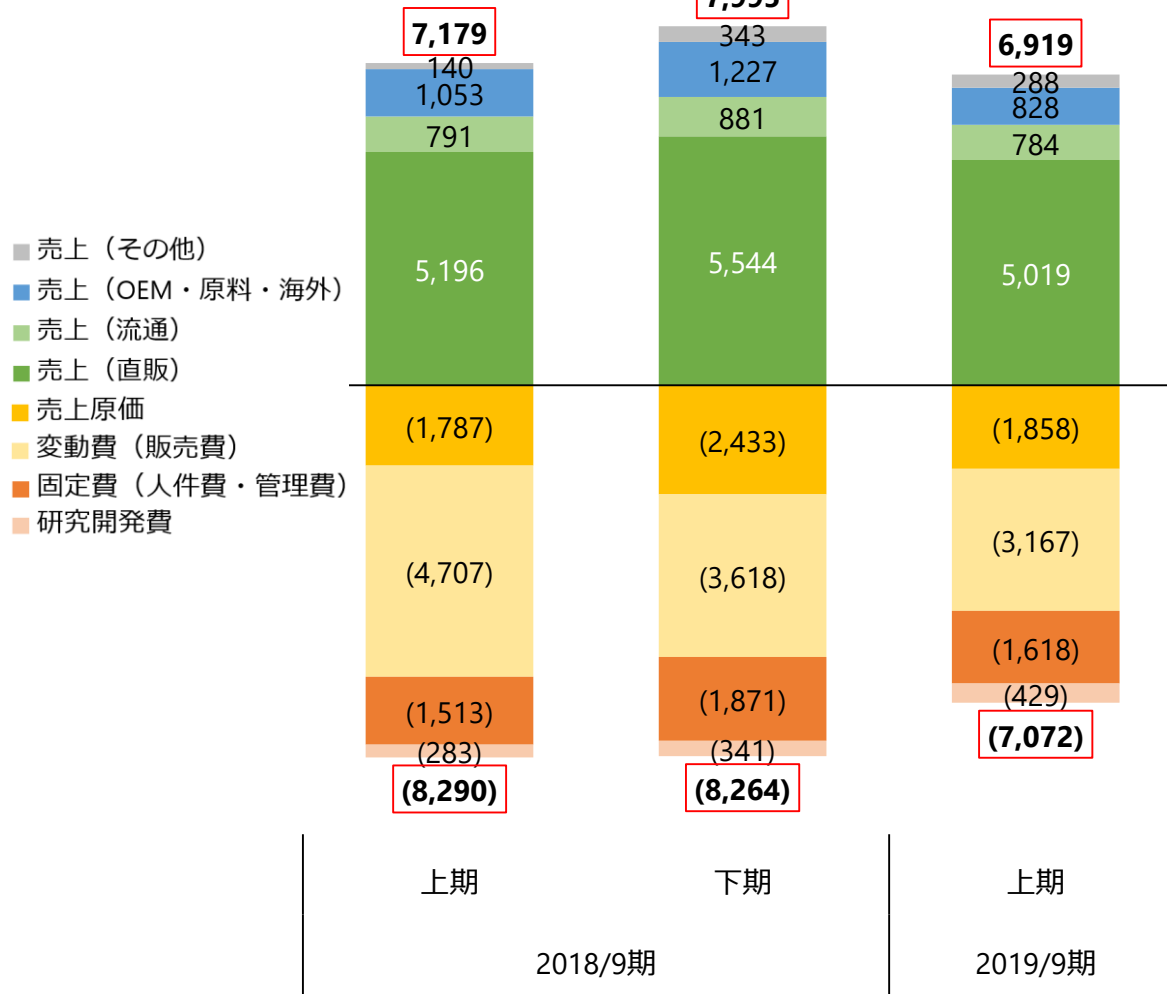


※1: バイオ燃料製造実証プラント引き渡しに伴う一括費用計上額を除いた数値
※2: 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

経営指標—収支構造推移

営業損益

(百万円)



**固定費の削減により
収益性が改善
営業赤字は着実に縮小**

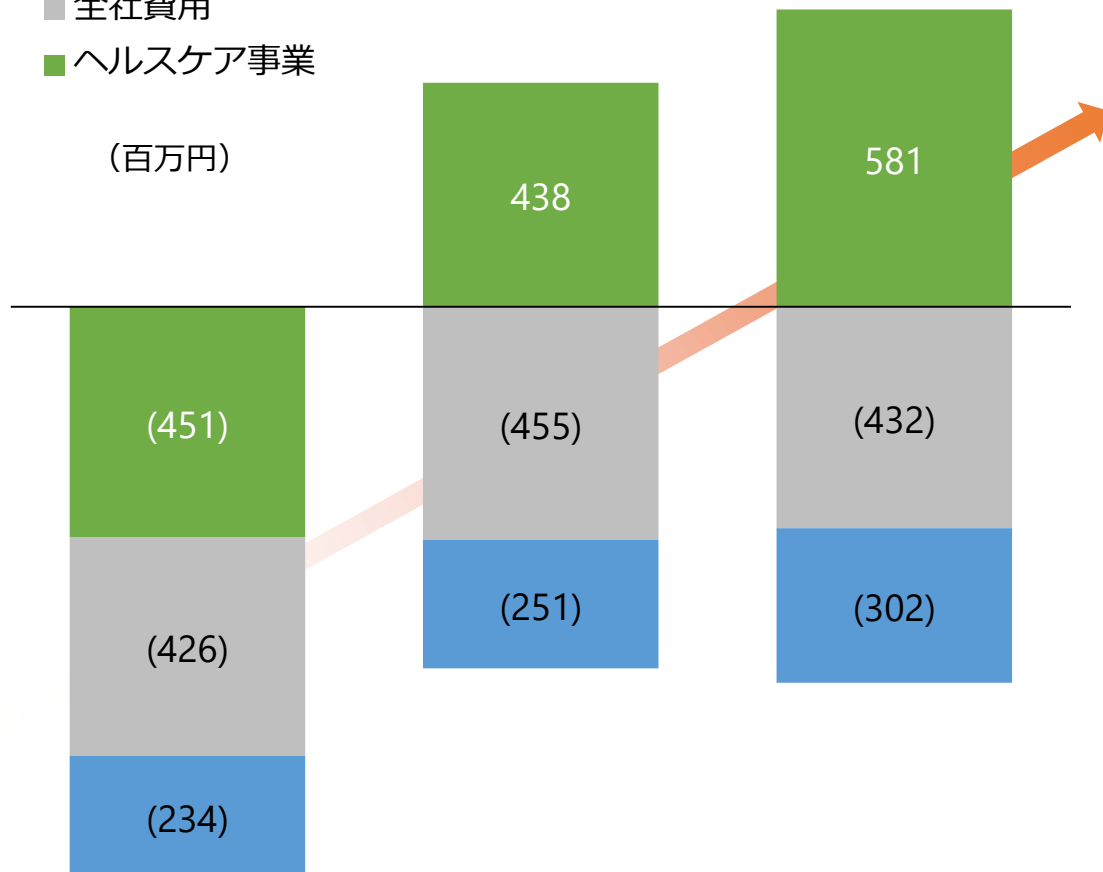
**売上再成長に向けた
筋肉質な体制を確立**

※: バイオ燃料製造実証プラント引き渡しに伴う一括費用計上額を除いた数値

経営指標—セグメント別営業損益推移

- エネルギー・環境事業（実証プラント一括費用計上額を除く）
- 全社費用
- ヘルスケア事業

(百万円)



**ヘルスケア事業
セグメントは
黒字幅を拡大**

**エネルギー・環境
事業セグメントは
実証プラントの
稼働に伴う
運転費用が増加**

上期

下期

2018/9期

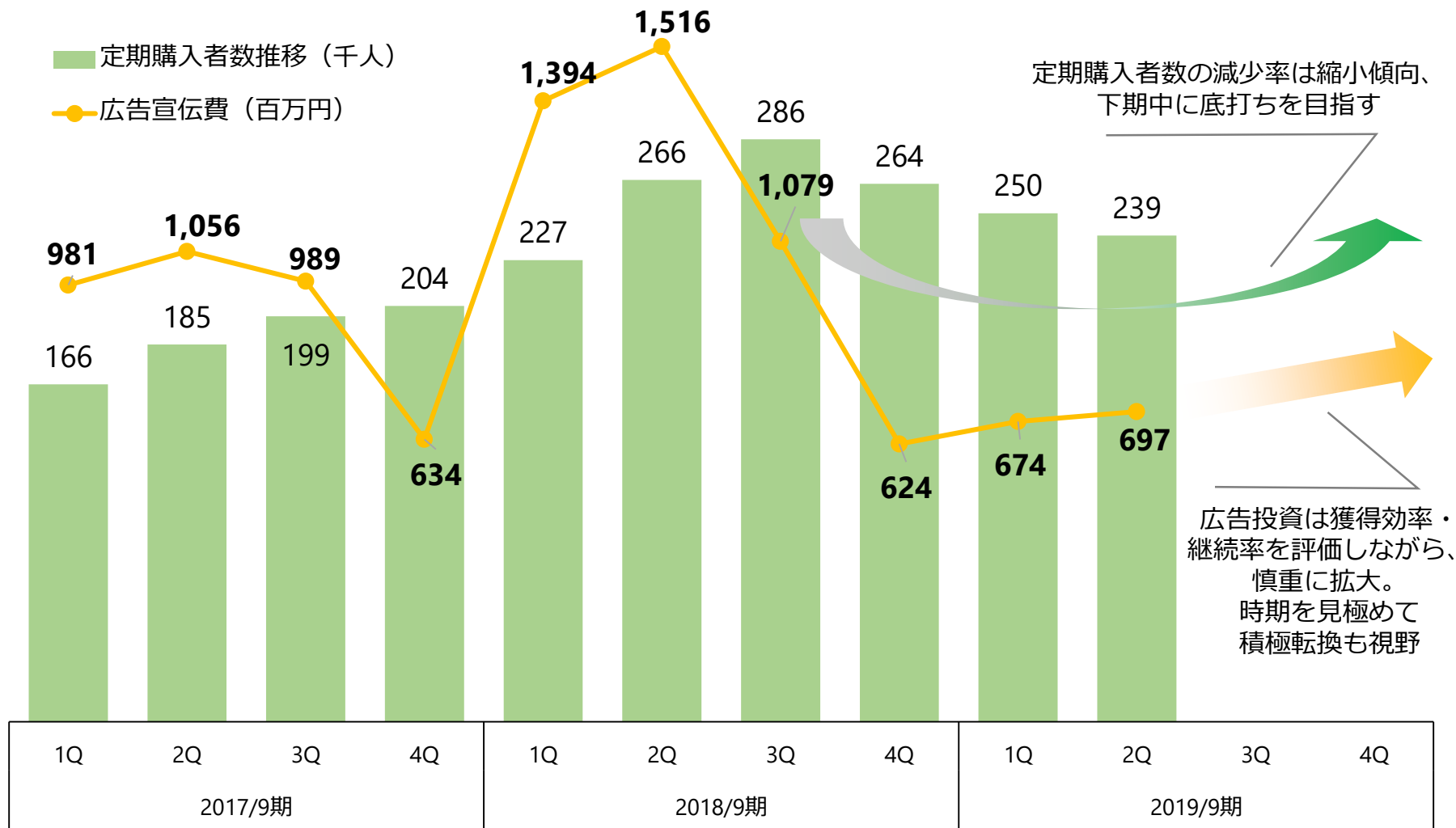
上期

2019/9期

ヘルスケア事業の進捗

直販—定期購入者数推移

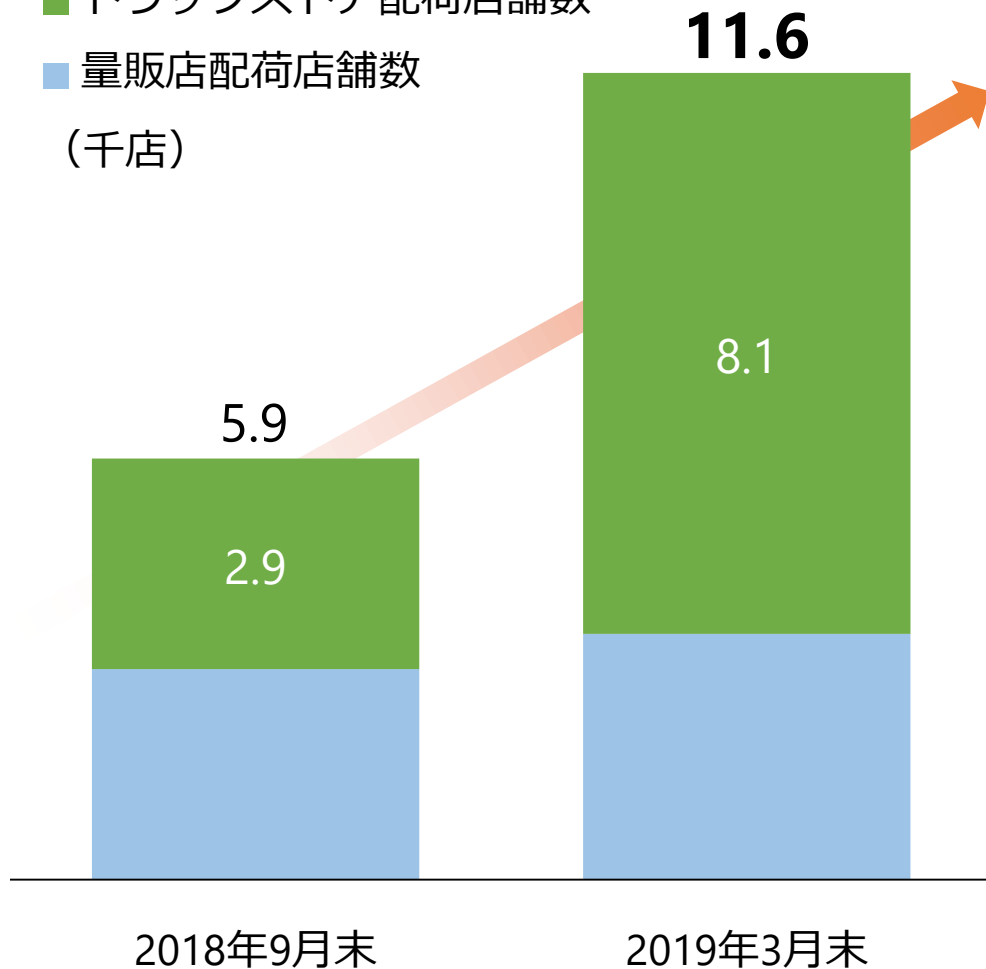
定期購入者数の減少率は縮小傾向。広告宣伝投資の積極化時期を見極めつつ、下期中の反転・再成長を目指す



流通—取扱い店舗数推移

2018年12月よりドラッグストアに直販主力製品“ユーグレナの緑汁”を展開

- ドラッグストア配荷店舗数
 - 量販店配荷店舗数
- (千店)



量販店と
ドラッグストアの
取扱店舗数の合計

11,000店
突破



ユーグレナの緑汁21包
※ドラッグストア向け商品

各チャネルごとの上期振り返り

直販

流通

OEM・原料・海外

今期方針

- 上期に戦略商品の再評価
- 戦略商品の評価完了後、**集中投資を予定**

- 食品：**ドラッグストア**向け販売の強化
- 化粧品：主要販路への営業リソース集中

- 新規OEM取引の**再開・拡大**
- 中国事業への注力
- クロレラ営業の強化

上期振り返り

- 様々なテストを経て、**定期購入顧客の効率的な獲得に成功**
- 定期購入顧客の継続率評価も最終段階



oneオールインワン
パワーリフティングクリーム

- 大手ドラッグストアチェーンを中心に“ユーグレナの緑汁”を展開
- **配荷店舗数は8000店以上**



ユーグレナの緑汁

- 新規OEM取引先開拓に関しては着実に実施
- 中国原料取引先への新規営業を展開
- 海外を中心としたクロレラ営業で売上伸長



ユーグレナ粉末

下期実施予定

- 積極的な広告宣伝投資の実施可否は下期中頃に判断

- 食品：配荷店舗からのリピート注文獲得を狙った販促およびマーケティング施策を強化
- 化粧品：継続的に営業リソースを投入

- **OEM取引先の新規開拓を継続、みどり麹のOEM展開も着手**
- 中国原料取引先への展開を強化
- 継続的なリソース投入をクロレラ営業で実施

直販領域におけるM&A

直販チャネルの成長加速化を図り、デジタルマーケティングに強みをもつMEJ社を完全子会社化



期待されるシナジー

名称	株式会社MEJ
所在地	東京都港区
事業内容	ヘルスケアDtoC事業 ■ 化粧品・健康食品などの製造、販売、卸売業 ■ 広告宣伝の企画、制作、配信事業

- オフラインマーケティング中心の当社直販チャネルで**デジタルマーケティングを強化**
- **若中年の顧客層へアプローチを拡大**
- 当社事業基盤とMEJ社のマーケティングノウハウの組み合わせにより、**オンライン分野でも両社の成長を加速**


主カブランド	 AGEST
--------	---

(百万円)	2018/9期 (実績)	2021/9期 (計画)	2022/9期 (計画)
売上高	721	1,747	2,907
営業利益	57	22	181

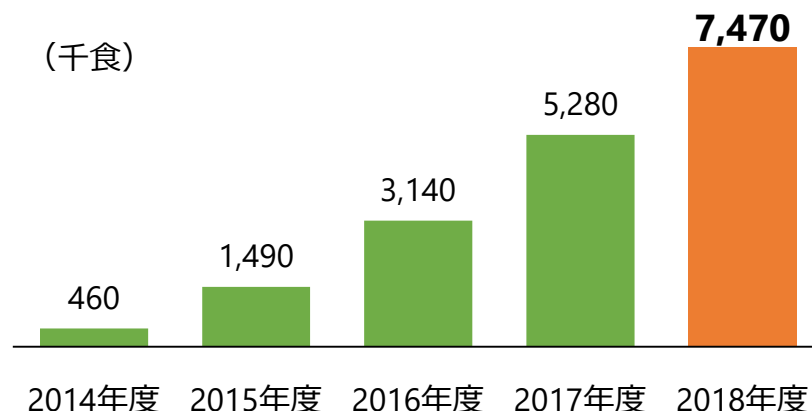

ユーグレナGENKIプログラム

プログラム支援対象商品を化粧品を含む全グループ商品へ拡大

経営理念・SDGsを打ち出すことで、ヘルスケア業界における商品差別化にも寄与

開始時期	2019年4月1日
対象商品	ユーグレナグループ全ての商品（食品・化粧品など）およびプログラム賛同企業の指定商品
運営費用	ユーグレナグループの連結売上高の一部、パートナー企業からの協賛金、および現地のNGO・学校からの支援
プログラムの内容	 <p>お客さまが対象商品を購入</p> <p>現地で製造したユーグレナ入りクッキーを子どもたちに配布</p>

これまでに700万食以上のユーグレナ入りクッキーを配布

お客様からの売上の一部で、
 バングラデシュの子どもたちに
 栄養豊富なユーグレナクッキー
 をお届けします。

プログラムロゴ
 ※今後すべてのユーグレナ社商品に付記予定

バイオ燃料事業の進捗

デンソーとの包括的締結

2019年2月、バイオ燃料原料の多様化と大規模培養における生産性向上を目指し、**デンソー社と包括的提携を基本合意**



DENSO

互いの技術を融合

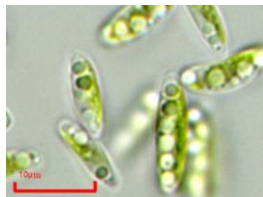
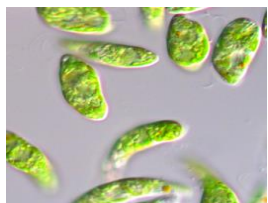


1. バイオ燃料事業の開発

- 複数の藻類を原料としたバイオ燃料を実証プラントにて製造
- 将来的な原料調達が多様化と安定的なバイオ燃料供給に向けた研究を加速

euglena

DENSO



微細藻類ユーグレナ

微細藻類ココミクサKJ

2. 微細藻類培養技術の研究開発

- 藻類の培養工程に関する技術やノウハウの相互補完により更なる生産性向上を推進

euglena

DENSO



農学的知見

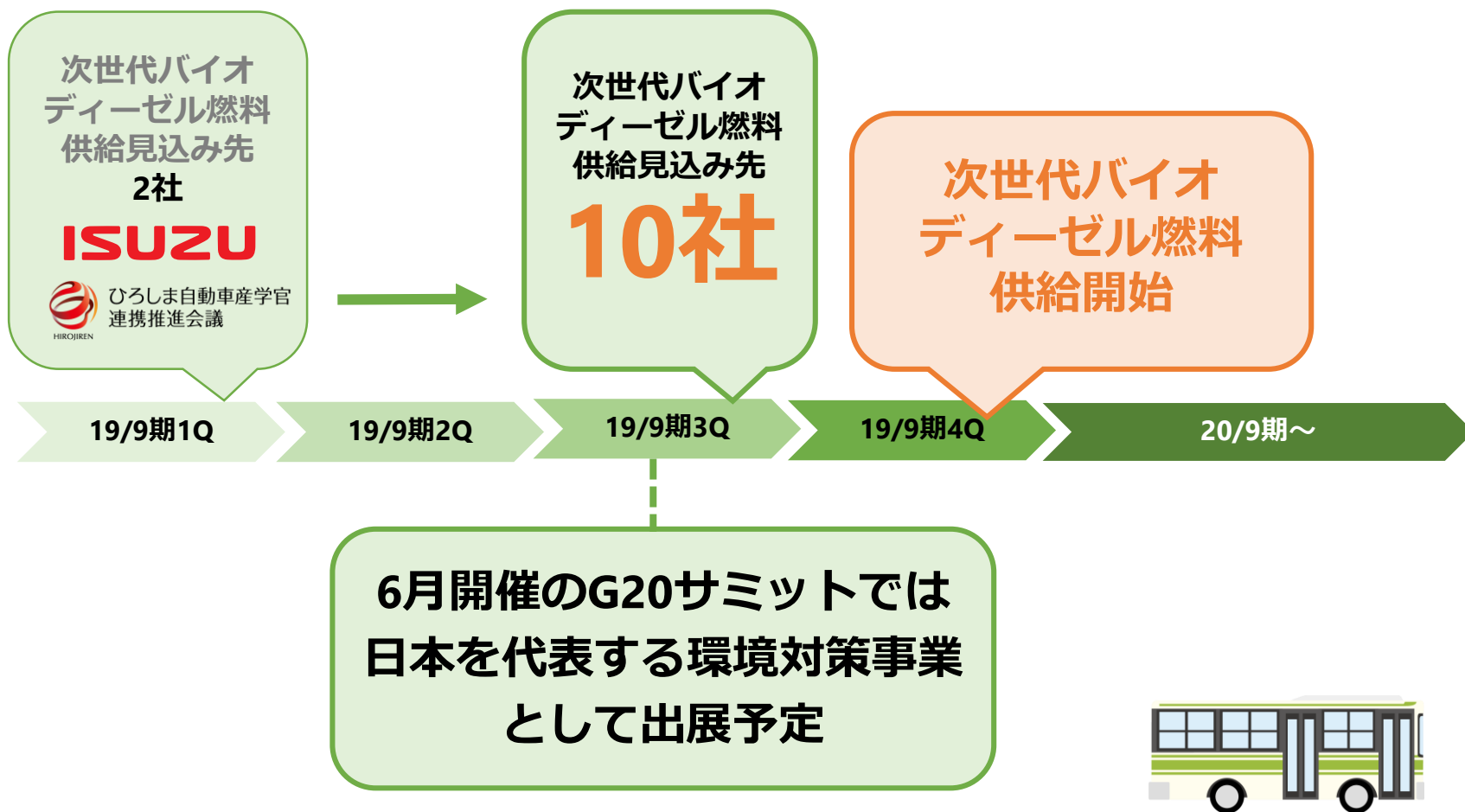


工学的な知見
(管理・カイゼンノウハウ)

※上記のほかに、「藻類の食品・化粧品等への利用」、「微細藻類による物質生産」の2分野についても提携

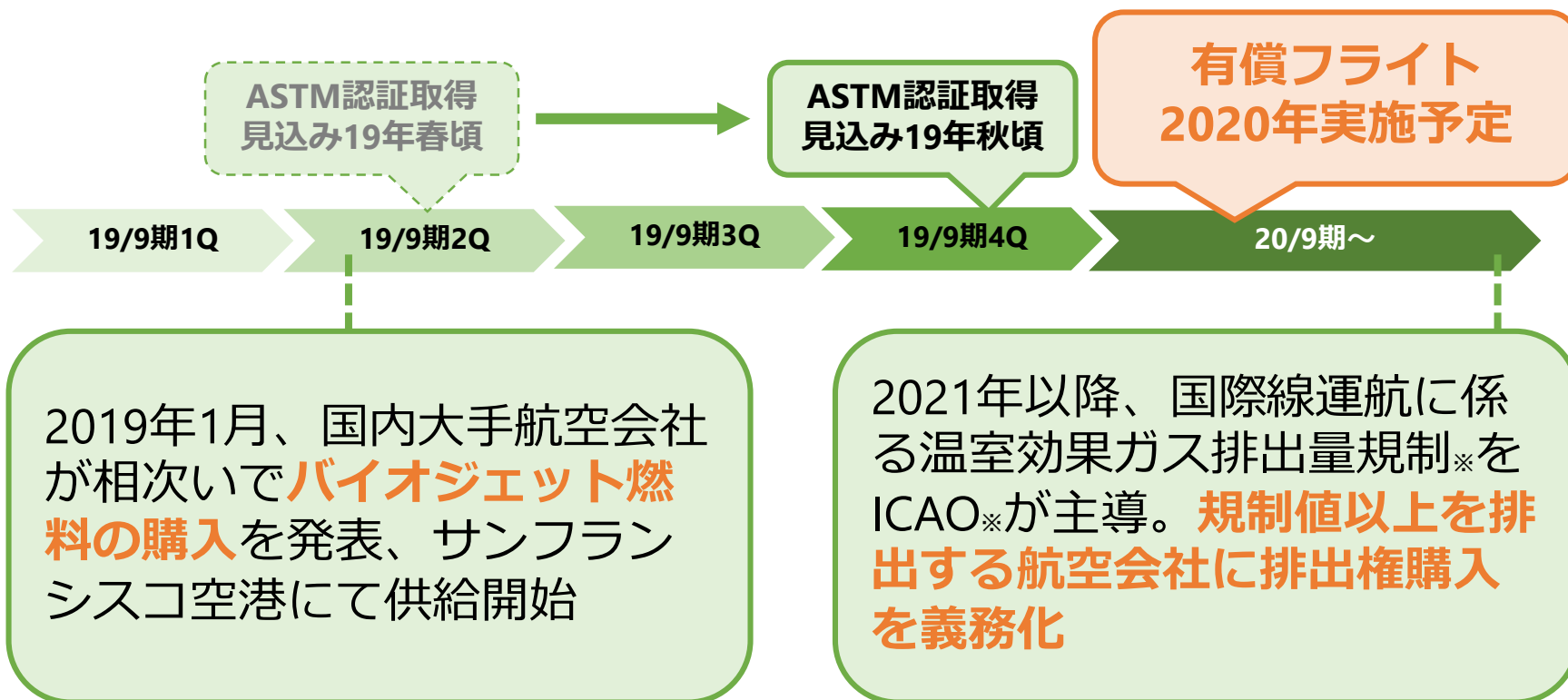
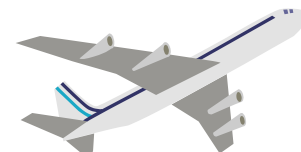
次世代バイオディーゼル燃料実用化に向けた進捗

次世代バイオディーゼル燃料における協力企業数と潜在ユーザー数が順調に増加、今夏供給に向けローンチを準備中



バイオジェット燃料実用化に向けた進捗

ASTM認証は今期秋頃取得となる見込みだが、**2020年に日本初となるバイオジェット燃料有償フライトの実現時期に変更なし**
世界・国内動向もバイオジェット燃料需要に追い風



2019年1月、国内大手航空会社が相次いで**バイオジェット燃料の購入**を発表、サンフランシスコ空港にて供給開始

2021年以降、国際線運航に係る温室効果ガス排出量規制※をICAO※が主導。**規制値以上を排出する航空会社に排出権購入を義務化**

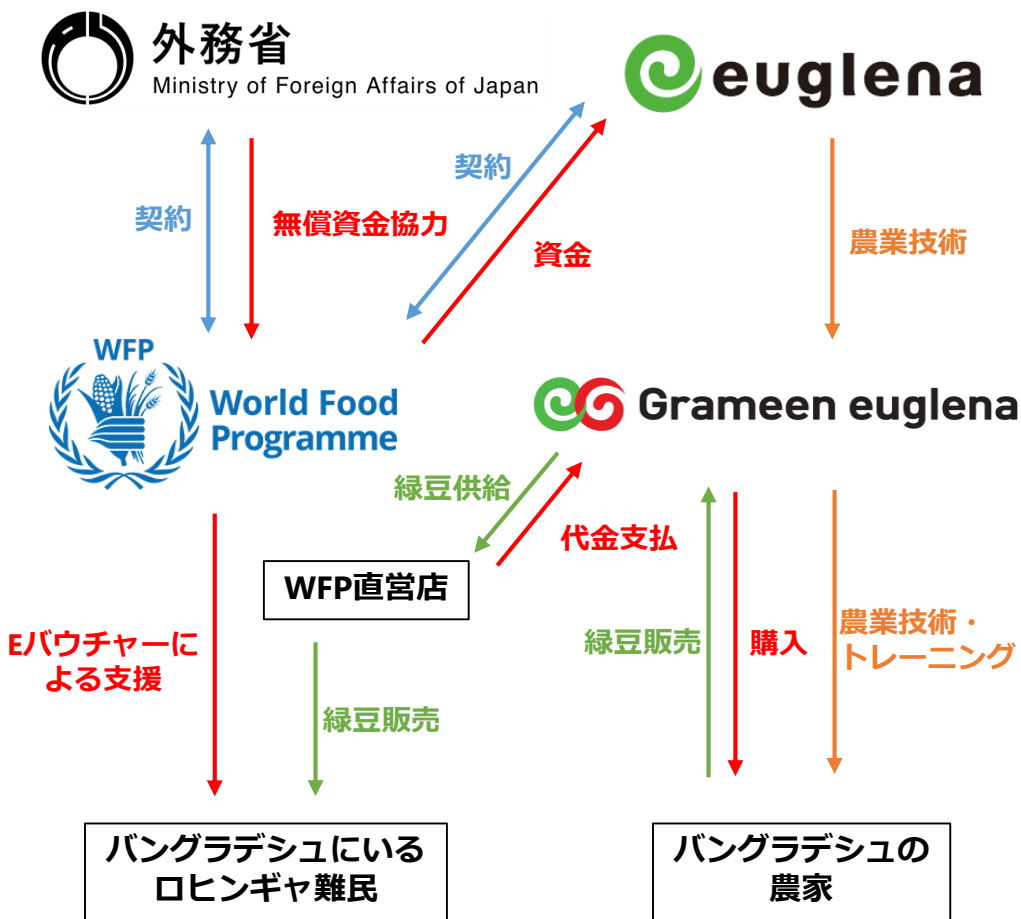
※規制名称：Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation (CORSIA)

※国際民間航空機関

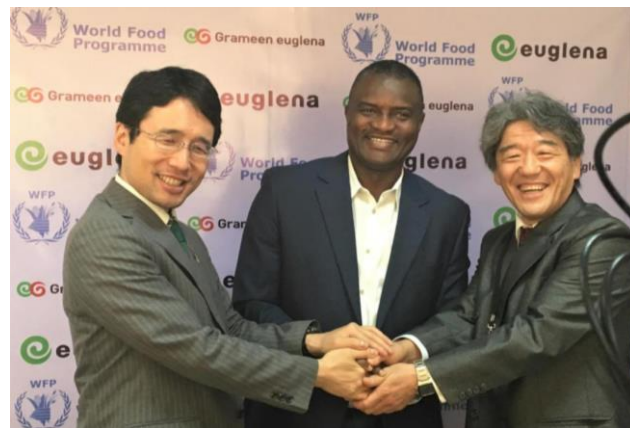
その他事業の進捗

Bangladeshでの活動

国連世界食糧計画（WFP）と日本の民間企業で初となる事業連携に関する覚書を締結、緑豆事業推進を後押し



事業連携に関する関係図



Bangladeshでの調印式にて

事業期間	2年間（2019年1月15日～2021年1月14日）
各社役割	<ul style="list-style-type: none"> ◎ WFP <ul style="list-style-type: none"> ■ 当社への活動資金を提供（約2.2億円） ■ グラミンユーグレナからの緑豆購入と緑豆を用いたロヒンギャ難民に対する食料支援 ◎ ユーグレナ社・グラミンユーグレナ <ul style="list-style-type: none"> ■ Bangladeshの農家に対する緑豆栽培技術習得のためのトレーニングを実施
対象	農家 2,000人、ロヒンギャ難民 20,000人

宇宙領域でのシーズ模索

“宇宙”を軸とした新規のプログラム・団体に当社が参画 ミドリムシの更なる活用方法を検討

新たな微細藻類培養技術と
食料資源の開発を推進

Space Food X



微細藻類ユーグレナを材料
に使用したステーキ

プログラム名 Space Food X
※JAXA（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）共創型研究開発プログラム宇宙イノベーションパートナーシップ（J-SPARC）の一環

運営 リアルテックファンド、JAXA、（株）シグマクス

概要 30以上の企業、大学、研究機関が参画し、宇宙および地球上の食料生産・供給に関する課題解決とマーケットの早期創出を目指すプログラム

当社役割 微細藻類を活用した食料生産

実用化を目指すバイオ燃料の
新たな活用方法を検討



みんなのロケットパートナーズ
のロゴ



インターステラテクノロジズ社が進める
衛星軌道投入ロケット「ZERO」の
開発機完成予想図

団体名 みんなのロケットパートナーズ
（略称：みんロケ）

運営 丸紅（株）、北海道大樹町、レオス・キャピタルワークス（株）、（株）日本創生投資、（株）カスタム、（株）バスキュール、JAXA

概要 インターステラテクノロジズ（株）が掲げる、従来よりも低コストかつ高頻度で打上げ可能な宇宙輸送事業実現というミッションに共感した企業・団体によるサポートチーム

当社役割 当社が開発するバイオ燃料の利用検討

補足資料

連結損益計算書サマリー

(百万円)	2017/9期					2018/9期					2019/9期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	一括費用 計上除く	2Q	合計	一括費用 計上除く
売上高	3,273	3,355	3,603	3,655	13,887	3,450	3,729	3,957	4,038	15,174	3,432	3,432	3,487	6,919	6,919
直販	2,115	2,366	2,375	2,406	9,262	2,445	2,752	2,881	2,663	10,740	2,549	2,549	2,471	5,019	5,019
流通	411	406	441	463	1,722	390	400	458	423	1,672	405	405	379	784	784
OEM・原料・海外	733	535	599	601	2,467	553	499	510	717	2,279	358	358	470	828	828
その他	14	48	188	185	435	61	79	108	235	483	120	120	168	288	288
売上原価	816	876	948	1,037	3,678	841	946	1,078	1,355	4,220	858	858	1,000	1,858	1,858
売上総利益	2,457	2,479	2,655	2,618	10,209	2,609	2,784	2,879	2,682	10,954	2,573	2,573	2,487	5,061	5,061
粗利率	75%	74%	74%	72%	74%	76%	75%	73%	66%	72%	75%	75%	71%	73%	73%
販売管理費	2,178	2,480	2,512	2,088	9,258	3,039	3,465	3,284	2,547	12,334	9,031	2,660	2,553	5,214	5,214
販売費	1,568	1,855	1,779	1,330	6,532	2,188	2,519	2,122	1,496	8,325	1,620	1,620	1,546	3,167	3,167
(内 広告宣伝費)	981	1,056	989	634	3,661	1,394	1,516	1,079	624	4,614	674	674	697	1,371	1,371
人件費	276	313	354	351	1,294	405	429	477	446	1,757	442	442	421	863	863
管理費	239	206	264	292	1,001	318	362	502	446	1,628	401	401	354	755	755
研究開発費	95	107	114	115	431	129	154	183	159	624	6,568	197	232	6,800	429
営業利益	278	-1	143	530	951	-430	-681	-405	136	-1,380	-6,458	-87	-66	-6,524	-153
EBITDA	364	116	267	666	1,413	-288	-516	-182	371	-614	144	144	174	-6,053	318
営業外損益	24	145	25	62	256	66	148	42	27	283	36	36	132	168	168
(内 助成金収入)	2	118	7	40	167	42	124	27	10	203	18	18	109	128	128
経常利益	302	144	169	592	1,207	-364	-533	-363	163	-1,097	-6,422	-51	66	-6,356	15
親会社株主に帰属する当期純利益	209	92	123	361	786	-462	-531	-373	113	-1,252	-6,495	-124	38	-6,457	-86

◆参考指標

減価償却費	64.9	89.7	93.3	101.2	349.1	91.3	108.7	125.1	145.1	470.3	140.9	140.9	149.7	290.6	290.6
(内 M&A関連)	10.7	10.7	10.7	10.7	42.8	10.7	13.4	18.7	18.7	61.5	18.7	18.7	18.7	37.5	37.5
のれん償却額	21.0	27.4	30.0	34.6	113.0	50.9	56.8	97.6	90.3	295.6	90.3	90.3	90.3	180.7	180.7

連結貸借対照表サマリー

(百万円)	2017/9期	2018/9期	2019/9期 2Q
流動資産	10,640	8,362	11,186
現金及び預金	7,152	4,427	7,553
その他	3,287	3,935	3,633
固定資産	8,217	13,476	8,211
有形固定資産	6,025	8,897	3,947
(内 建設仮勘定)	3,671	4,984	4
無形固定資産	1,626	3,777	3,542
投資その他の資産	565	802	722
(内 投資有価証券)	180	389	382
総資産	18,858	21,838	19,397
負債	3,202	5,933	6,132
流動負債	1,704	2,081	2,244
(内 短期借入金)	164	461	437
固定負債	1,498	3,851	3,889
(内 長期借入金)	1,123	3,389	3,174
純資産	15,655	15,905	13,264
株主資本	15,638	15,898	13,258
(内 資本金)	4,863	5,424	7,318
(内 資本剰余金)	6,686	9,080	10,974
(内 利益剰余金)	2,876	1,625	-4,883
その他	17	7	6
負債純資産合計	18,858	21,838	19,397

バイオテクノロジーで、
昨日の不可能を今日可能にする

